

1 単元名 防災について考える

2 単元について

政府の地震調査委員会は、30年以内に震度6以上の地震が千葉市に発生する確率を85%と発表している(H29.4.27)。児童が小中学生の時か大人になり自分の家族をもった時に被災する可能性がある。過去の大震災の教訓を経て、建物の耐震の強化や避難場所等の設置訓練などが年々進んでいるため、地震による死亡確率は交通事故より低いと言われている。そこで、問題となってくるのが、地震後の生活である。十分な救援物資が届くのに最低3日必要と言われており、電気やガス、水道といったライフラインが止まった中での生活について、児童は深く考えられていない。また、児童の実態からみて、防災への意識の低さがみられる。そこで、震災被害から生き延びるために今からできることをテーマに活動を進めていく。防災グッズや非常食の現状把握や準備、避難所での生活の仕方、またその場にあるもので作れる日用品などについて探究し、防災への意識を高め、今からできることについて関心を高く持って、実践していこうとする姿を育てていきたい。

第一次では、『自助』について考えていく。東日本大震災において、避難や避難先で役立つものや逆に困ったこと、必要だったことを提示しながら、震災による被害状況やその状況を打破するための支援や道具について確認していく。確認していく中で、各家庭や学校、地域の防災への取組や備蓄の現状とのずれを感じるはずである。そのずれを生かしながら、防災に対する課題意識を高めて活動に入っていきたい。実際に、家族と避難後の生活・防災用具について確認したり、学校の防災倉庫の備蓄品を見たりしていく。また、千葉市の総務局防災対策課との連携も考えながら情報を収集し、自分や家族が安全に被災後も暮らしていける対策を整理・分析していく。まとめ・表現では、Before・Afterを意識して写真や説明を加え、学級や学年に対して発信していきたい。

第二次では、『共助』について考えていく。学級や学年に発信していく中で、自分や家族、同じ学年の友達だけではいけないと感じ、学校全体や地域に向けて発信したいという気持ちが出てくると考える。どのような形で発信していくのか、何を伝えるべきかを思考しながら発信方法を話し合っていくとともに、発信する機会についても効果的な発信につながるよう、丁寧に模索していきたい。

3 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発で、一生懸命に取り組むことのできる子たちである。男女関係なく班活動をしたり、遊んだりしている。学習では、意欲的に発言する児童が多く、その発言から授業が深まる場面も少しずつ見られるようになっている。

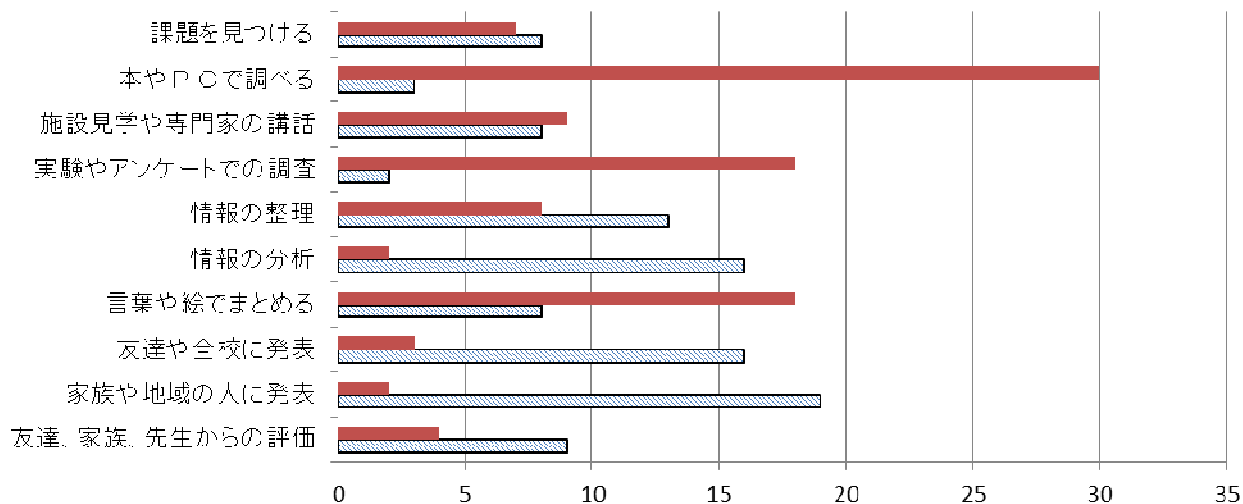
総合的な学習の時間への意欲は、下記の実態調査にあるように、「どちらかといえば好き」と回答した児童が65%で、35%が「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答している。『これまでの学習で心に残っていたり、今の生活に生かされたりしている』の回答を見ても、意識の低さが窺える。楽しさを感じるものには、情報収集に対するものが圧倒的に高く、整理・分析や表現に対するものが低い。自分自身も含め、友達や家族、先生からの評価についても数値が低くなっている。

このような実態から、探究的な学習の流れや意図を確認しながら、それぞれの楽しさを実感できるように話し合いの場の工夫や思考ツールを活用して、児童が主体的に活動できるようにしていきたい。

Q. 総合的な学習の時間は好きですか？

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
2%	65%	28%	5%

Q. 総合的な学習の時間で楽しいと思う活動（上段）・イヤだと思う活動（下段）は？



Q. 3・4年生の総合的な学習の時間で活動した中で、心に残っていたり、今の生活に活かされたりしていることはありますか？ある場合は、どんなことですか？

ない	68%
ある	32%

⇒発表する力が身についた 安全マップ
 花づくり 特産物 ホウセンカ 千葉の祭り 千葉市PR 千葉県PR 利根川
 千葉市の城 しょうゆ

地震についての意識調査を見ると、東日本大震災の被災経験はあるが、幼少期であったことも関係があるのか、「とても怖い」と回答した割合は40%と決して高くない。「怖くない」「わからない」を合わせた割合は4分の1もいる。地震の怖ろしさを痛感させる必要はないが、地震によって大きな被害が出ることや命が奪われることなどの怖さは理解してもらいたいと考える。

また、地震の後に起こる災害についての知識は高くなく、学校区に甚大な被害を与えない津波への認識が高い。「その災害から身を守ってくれたり、助けてくれたりすること・物」についての回答を見ると、防災頭巾や机の下に頭を入れて守ることや避難所に逃げることといった最低限のことは理解できている。しかし、被害を拡大しないような手だてや避難後の生活については、深く考えられていない。「自分や家族で準備しているものや話し合っていること」についての回答からも窺える。この学習を通して、自分の命は自分で守る（自助）ことや共に助け合う（共助）の考え方はしっかりと理解し、その時に最善の行動ができるように準備や想定をしていけるようにしていきたい。

Q. あなたは、地震についてどう思っていますか？

とても怖い	少し怖い	怖くない	わからない
40%	34%	14%	12%

Q. あなたは、地震の後に起こる災害について、いくつ知っていますか？

また、その災害から身を守ったり、助けてくれたりすること・物は何か知っていますか？

地震の後に起こる災害	回答数	その災害から身を守ったり、助けてくれたりすること・物
津波	26	高い建物：19 堤防・救助隊・浮き輪：2 警報・ボートなど
火災	9	水：5 消防：3 消火器：2 防災頭巾・非常口
落下物	8	机・イス：6 頭を守る
土砂くずれ	8	避難場所：5 警報・ドクターヘリ：2
停電	6	ライト：4 非常食・水
ガラスの破損	4	机の下：3 にげる：2
余震	2	頭を抱える：2 体育館
ばくはつ	1	(未記入)

4 単元の目標

地震によって起こる災害やその災害から身を守る手段を知り、今の自分の状況を考えながら防災への意識を高め、実践しようとする事ができる。また、自分の命は自分で守るという認識はしっかりと持ちながら、学校や地域の方との協力体制が大切であると分かる。

5 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>○被災後には様々な問題が起こることを知り、諸問題に向けての対策や地域の協力体制が大切であることが分かる。</p> <p>○既習事項や思考ツール等を活用しながら、活発な話し合いや課題の把握・解決、発表資料の製作などができる。</p>	<p>○自分の身の回りについて見直し、今からできる必要なことは何かをみつけることができる。</p> <p>○全校や家族、地域に応じて、伝えるべきことはなにかを適切に判断できる。</p> <p>○防災への意識が高まるように、内容や伝え方を工夫して発表することができる。</p>	<p>○防災について関心を高く持ち、進んで今からできることを準備したり、意識したりすることができる。</p> <p>○万が一の時には、自分にできることに取り組もうと考えるなど、協力体制をとっていこうとする。</p>

6 指導計画（35時間）

過程	主な学習活動	学習形態	・教師の支援 ☆観点別評価【評価の方法】	時数
課題を設定する	<p>第一次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災など、過去の地震を伝える新聞や写真を見て、地震の恐ろしさや辛さを考える。 ・これまでの避難訓練の様子や実際に地震が起きた際の行動について振り返る。 ・テーマ名を決定する。 ・学習前の自己評価を行う。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・記事や写真の選定を丁寧に行い、地震に対しての恐怖心をあおりすぎないようにする。 ・自分の命は自分で守る【自助】ことがまず大切だと思うように、発問や話の方向性に気を付ける。 <p>☆学びに向かう力、人間性等【発言】</p>	1
	<ul style="list-style-type: none"> ・被災後に起こる様々な問題について想起する。 ・起こる問題を黄色の付箋、その問題を助けること・ものを緑色の付箋に書く。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・箇条書きでも、言葉や絵だけでもよいので、思いついたことを書き留めるようにすることを確認する。 ・家に持ち帰り、家族にも聞いてみるようにして授業を終える。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> ・被災後に起こる様々な問題や道具などについて、前時に書いた付箋と時系列を意識したワークシートを活用しながら友達と共有する。 ・グループ（5人：7G）で出た意見を全体でまとめる。 	<p>グループ</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の手順を示して効率よく話し合えるようにする。 ①起こる問題を1つ取り上げる。 ②その問題がいつからいつごろまで影響するかを矢印で示す。 ③その問題を助けること・ものを貼り、意見交換等をする。 <p>☆知識及び技能【発言】</p>	1 本時 校内研
	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめたものと今の自分や家庭、学校や地域の状況を比べ、課題を見つける。 ・学校の防災倉庫（教頭）や自治会の方（評議員もしくは保護者）に備蓄状況についてのお話を聞く。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・心のどこかで、「誰かが準備しているだろう」「学校に行けばあるだろう」という考えを引き出し、実際とのずれを児童が感じるようにする。 ・お話していただく方と事前の調整を行い、網羅しなければならない人数や備蓄が十分でないことをお話していただくようにする。 <p>☆学びに向かう力、人間性等 【発言・学習ノート】</p>	1 本時 市教研 ④

情報 を 収集 する	<ul style="list-style-type: none"> ・本やパンフレットから自分や家族に必要なものやその数を調べ、リストを作成する。 ・実際に学校の防災倉庫を見学し、備蓄されているものやその数を見たり表で確認したりして調べる。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・予め本を選定し、効率よく調べられるようにしておく。 ・事前に教頭から備蓄状況の保管表を入手しておく。 <p>☆技能【学習ノート】</p>	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・市の総務局防災対策課に電話もしくはお手紙で、市が防災に対してどんな考え方なのかを聞く。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・市の総務局と連絡を取り、効果的な方法を練り、手段を決める。 ・電話の仕方やお手紙の書き方の復習をし、適切に行えるように指導・支援する。 <p>☆技能【電話の対応や手紙の文言】</p>	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・リストを参考に、実際に家に備蓄等してあるものやその数を確認する。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（自治会）については、できる限りでよいことを伝える。 	課外
	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した現在の情報・状況をまとめる。（Before を押さえる） 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・表や箇条書きでまとめたり、写真を撮ったりしていくとよいことや今の率直な感想を書き留めておくことを伝える。 	1 ⑨
整理 し 分析 する	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をもとに、付箋に書き表し、座標軸を活用しながら今の自分や家族に必要なことを分析する。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの宿題とし、自分だけでなく家族からの意見ももらいながら9月から探究していくテーマをみつけるように指導する。 <p>☆思考力、判断力、表現力等【座標軸】</p>	1
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と座標軸を見合いながら情報を共有し、情報の幅を広げたり、深めたりする。 ・自分がまとめていくべきものを分析し、テーマを決める。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成や住んでいる家の状況や場所等を考慮するように声をかける。 ・今の自分や家族の状況に合い、探究しやすいものとなるように話を聞き、助言をしていく。 	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・本やパンフレット、PC等の情報を活用して、自分がこれからすべきことを分析する。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をそのまま鵜呑みにするのではなく、家族構成や環境等によって違うことをしっかりと指導し、自分に合うように数値やものを変更できるようにする。 <p>☆思考力、判断力、表現力等 ☆知識及び技能</p> <p>【活動の様子、学習ノート、聞き取り】</p>	4 ⑩

まとめ、表現する	<ul style="list-style-type: none"> 整理・分析した現在の情報・状況をまとめる。(After を押さえる) 	個人	<ul style="list-style-type: none"> Before の情報を確認しながら、同じような形式で表や箇条書きでまとめたり、変化のあった箇所の写真を撮ったりしていくとよいことや今の率直な感想を書き留めておくことを伝える。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> 発表していく形式を決め、資料や発表原稿の作成を行う。 適宜、友達と発表を見合いながら助言をもらい、修正を加えていく。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> Before と After を意識してまとめるよう、見本を示しながら指導をしていく。 友達に発表している時に一緒に見て助言を加えていく。 ☆知識及び技能【発表資料・原稿】	5
	<ul style="list-style-type: none"> 同じテーマでやっていない同学年の学級に成果を、ワークショップ形式で発表する。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> 時間のある限り発表し、自分の成果を伝えられるように支援する。 ☆思考力、判断力、表現力等 【発表の様子】	1 ⑳
課題を設定する	第二次 <ul style="list-style-type: none"> 自分たちだけ知っていればよいことではないことに気づき、どんな人を対象に広めていくべきかなど、課題を立てる。 中間の自己評価を行う。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> 「学年のみんなに広めたことで十分か？」等を問いかけ、自助から互助・共助へと視野が広がるように支援する。 ☆学びに向かう力、人間性等【発言】	1
	<ul style="list-style-type: none"> 決めた対象に向けて、どのような形式や場、内容にするかを話し合う。 発表の内容や形式によって、グループ分けを行う。(1G: 3~5人) 	全体 ↓ グループ	<ul style="list-style-type: none"> いろいろと意見が分かれるようであれば思考ツールを活用し、一人一人の意見が伝えられる場を保証する。 発表の形式として、壁新聞や休み時間での発表、TV放送等を提示する。 ☆知識及び技能【発言・活動の様子】	1 ㉕
情報を収集する・整理し分析する	<ul style="list-style-type: none"> 発表に向け、さらに必要な情報があれば本やパンフレット、PC等を活用して情報を収集する。 どの情報をどのように伝えるべきかをグループで整理・分析する。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 発表の形式に合わせて、情報を収集したり、整理・分析したりするように活動の様子を見て助言をする。 必要に応じてグループでの話し合いが活発になるように、思考ツールの枠を渡すなどする。 ☆思考力、判断力、表現力等 ☆知識及び技能 【活動の様子、学習ノート、聞き取り】	4 ㉙

まとめ、表現する	<ul style="list-style-type: none"> 対象を意識しながら、文章や絵などを工夫し、効果的な発表になるように発表資料や原稿を作成する。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 下書きやリハーサルなど、準備段階の様子を丁寧に見回り、適宜助言を加える。 撮影等の技術を要する活動には積極的に関わり、支援をする。 ☆知識及び技能【発表資料・原稿】	5
	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表・発信・掲示をする。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 発表の支援を行い、発表者も傍聴者も有意義な時間になるようにする。 ☆思考力、判断力、表現力等 【発表の様子】	課外 ③4
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 防災の学習を通して感じたことやこれからの意識を全体で共有する。 学習後の自己評価や振り返り、感想を書いたり、友達の評価を行ったりする。 	全体 ↓ 個人	<ul style="list-style-type: none"> どんなところが成長できたかなど、自己評価カードの観点にそって丁寧に振り返る。 感想や友達での評価でも具体的に成長したところを記述するように声をかける。 ☆学びに向かう力、人間性等 【発言・振り返りカード】	1 ③5

7 研究主題との関連

子供・学校・地域が密に関わる生活科・総合的な学習の時間の創造

～新しい未来を切り拓く「生きる力」を育てる実践を目指して～

千葉県教育研究会 大会主題

『はばたけ！未来を創る子どもたち ～見つける・つながる・実現する～』

【視点1 主体的な課題・指導展開の設定】

○「自助」⇒「互助・共助」を意識した防災学習

防災の意識としても、子供の思考としても「まず、自分の命は自分で守る（自助）」から「共に助け合って生き延びる（互助・共助）」へ移行していく流れがよいと考える。

防災の考え方として、第一は死なないこと・家屋財産を失わないことを最優先して対策すると言われている。だからこそ、どんな状況であれ、自分も自分の命を守るために、自分の家や財産、思い出を守るためにできることをまず学習していきたい。

そして、時間が経つと近隣や避難先での協力が必要になってくる。そんな時、一人でも多く防災に関する知識がある人が多くいることで、適切な対応や安心した生活を送ることができる。東日本大震災でも、学校に避難してきた地域の方々のために、学生が主体的に働きかける場面が紹介されていた。何年後に被災するかはわからないが、上記にあるように近い将来に起こると言われているため、この子たちの世代の働きかけは大切になると考える。だからこそ、学習の成果を広げることで、互助・共助の考え方を広めていきたい。

○外部の人材活用

本やパンフレット、PC からの情報だけではなく、地域の方や市役所の方との関わりをもった活動を設定し、児童が探究課題に対してより真剣に、より現実味を感じられるようにしていきたい。

児童にとって一番身近である学校や地域、市が、防災に対してどのような考え方を持っているのか、そして自分たちに期待していることなどを実際に聞くことで、防災意識は高まっていくと考える。また、このような関わりから関係が深まり、有事の際の協力体制の強化にもつながると考える。

また、まとめ・表現の場の対象としても地域に目を向けていきたいと考える。本校は、11月にフェスティバルが行われる。例年、学習の発表の場として活用されることは少ないが、保護者会の役員さんと相談しながら、何かしらの方法で発信できるようにしていきたい。さらに、本校は学区に駅がある。駅構内の掲示板を活用させていただきながら、駅を利用する方にも表現して、反応をもらえたらと考えている。校内だけにとどまらず、いろいろな方から意見をもらえることで、まとめ・表現する楽しさを感じたり意義を理解したりすることで、今後の活動の主体的な態度につなげていけると考える。

【視点2 変容が実感・認識できる評価の設定】

○新学習指導要領での評価の実施を見据えた3観点での自己評価

本年度は、前年度と同様の評価項目・評価規準で行うとの通知があったが、早ければ来年から実施されるであろう3観点での自己評価を行っていき、変容を実感・認識できるようにしていきたい。他教科での3観点の評価についても先の話ではあるが、総合的な学習の時間を通して得た力が、他教科（防災学習→社会科「自然災害を防ぐ」）での学習でどう生かされていくのかを先行して研究していきたい。

児童には、単元の前・中・後にこの単元で身に付けてもらいたいことを示した自己評価を行う。これを行うことで、児童は単元全体を通してだけでなく、各活動においてのめあての指針となり、力の向上に向けて努力したり、成果を振り返る中で自己への自信につながったりするはずである。また、友達や教師からの見る視点も定まり、より子供が変容を実感・認識できる声掛けや賞賛ができるようになると思う。

○活動の足跡をたどれる掲示物の作成

毎時間や定期的な活動の振り返りも大切であるが、35時間と長期にわたる単元でもあるので、数か月前の活動の様子やその時に感じた思いや言葉は忘れがちである。こういった思いや言葉を、写真や吹き出し、学習ノートのコピーなどで丁寧に残し、掲示しておくことで変容が実感・認識できると考える。活動の目的がずれてきたり、停滞したりしたときなどにも活用していきたい。

8 本時の指導（3／35）

（1） 本時の目標

○経験や知識を生かして活発に意見を交換しながら、被災後には様々な問題が起こることを知る。

【知識・技能】

（2） 展開

	学習活動と内容	教師の指導と支援（○）、評価（☆）						
3分	1 学習道具（宿題：起こりうる問題を書いた付箋紙）を確認、準備する。	○家族と確認したことが、グループでそろっているかを確認させる。						
	2 学習課題を確認する。 被災後に起こる問題を整理しながら、身を守るためのこと・ものを確認しよう。							
20分	3 本時で使う表や付箋の扱い方、例示を全体で確認し、学習の見通しを持つ。	○使う表と板書をそろえ、児童が同じように扱えるように支援する。 ○「停電する」を例として示し、「暗くて懐中電灯やろうそくの準備が必要」などということをみんなで話し合うよう声をかける。						
	4 グループ（5人：7G）ごとに活動する。 ＜予想されるもの＞	○グループを回りながら、そのグループに必要な助言や支援を行う。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震発生直後から6時間</th> <th>発生6時間から24時間まで</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 停電 情報不明 携帯ラジオ 発電機 暗い 懐中電灯 火事 避難経路 消火器 火災報知器 貴重品 バック 断水 飲み物 おしぼり 携帯トイレ 非常食 けが 救急バック 手当仕方 </td> <td> 避難 避難先 判断 家族と連絡 倒壊 ヘルメット パール プザー・笛 食料品不足 保存食 水 生活用品不足 服・下着 救援物資 受取先 体調不良 薬 シップ 緊急病院 音信不通 避難先 緊急連絡先 緊急ダイヤル </td> </tr> <tr> <td></td> <td> 寝床 場所の確保 毛布 寝袋 </td> </tr> </tbody> </table>		地震発生直後から6時間	発生6時間から24時間まで	停電 情報不明 携帯ラジオ 発電機 暗い 懐中電灯 火事 避難経路 消火器 火災報知器 貴重品 バック 断水 飲み物 おしぼり 携帯トイレ 非常食 けが 救急バック 手当仕方	避難 避難先 判断 家族と連絡 倒壊 ヘルメット パール プザー・笛 食料品不足 保存食 水 生活用品不足 服・下着 救援物資 受取先 体調不良 薬 シップ 緊急病院 音信不通 避難先 緊急連絡先 緊急ダイヤル		寝床 場所の確保 毛布 寝袋
地震発生直後から6時間	発生6時間から24時間まで							
停電 情報不明 携帯ラジオ 発電機 暗い 懐中電灯 火事 避難経路 消火器 火災報知器 貴重品 バック 断水 飲み物 おしぼり 携帯トイレ 非常食 けが 救急バック 手当仕方	避難 避難先 判断 家族と連絡 倒壊 ヘルメット パール プザー・笛 食料品不足 保存食 水 生活用品不足 服・下着 救援物資 受取先 体調不良 薬 シップ 緊急病院 音信不通 避難先 緊急連絡先 緊急ダイヤル							
	寝床 場所の確保 毛布 寝袋							
15分	5 グループで出したことを全体で共有する。 ・児童同士で指名し合う。	☆経験や知識を生かして活発に意見を交換しながら、被災後には様々な問題が起こることを知る。【知識・技能】（発言・付箋記録） ○予想されること（上記のもの）を予め紙に書いて、すばやく貼れるよう準備しておく。						

分	・ハンドサインで、 チョキ：付け足し・関連 を優先して指名する。	○ハンドサインを確認し、効率よく発表・まとめができるようにする。
7分	6 本時の活動を振り返り、方向性を確認する。	○貼り出された表を振り返り、だれがどこに準備しておくかなど、次時につながる話をする。

8 本時の指導（4／35）

（1）本時の目標

○防災について関心を高く持ち、進んで今からできることを準備したり、意識したりしようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

（2）展開

	学習活動と内容	教師の指導と支援（○）、評価（☆）
10分	<p>1 前時に作成した表を振り返りながら、活動の目的や防災に関することを再確認する。</p> <p>2 仮想シミュレーションを行い、被災後の自分の行動や身を守るためのもの・ことの使用などについて考え、感想を伝え合う。</p> <p>例：家で一人被災した後、停電に →ものが倒れている・ガラスが割れた →普通に歩いても大丈夫？懐中電灯等はどこ？ →電気がつかない中、生活できる？ ⇒一人でもなんとかかなりそう？</p>	<p>○いろいろな被害想定があり、いつ、どんな場所で被災するかわからないことを押さえる。</p> <p>○自分の家の中やよく遊ぶ公園の様子を思い浮かべながらシミュレーションを行うように話してから行うようにする。</p> <p>放課後に公園で被災した後、避難指示が →周りには大人が居らず、下級生ばかり →この公園に留まる？どこかに避難する？ →どうやって家族と連絡をとる？ ⇒一人でもなんとかかなりそう？</p>
5分	<p>3 不十分なところはどのようにするのか？どう補うのかを話し合う。</p> <p>予想される・期待する発言 ・避難先でもらえるのでは？ ・学校に行けば、なんとかなる！ ・救援物資が届くって聞いたことある。</p>	<p>○「自分で準備する」という意見も大切にしながら「なんとかなるのでは」という意見をうまく拾い上げ、少し危機感をあおるようにして、次の活動につなげる。</p>
15分	<p>4 教頭先生や地域の自治会の防災に携わる方からのお話を聞き、現状を把握する。</p> <p>伝えてもらいたいこと ・学校には防災倉庫というものがあり、その中にはいろいろな物資や道具がある。 ・この防災倉庫に物資をもらうのは、学校の子供もだけでなく、家族や地域の方にも配ること。 ◎数は十分ではないこと、必要だけれどもな</p>	<p>○事前に、必ず伝えてもらいたいことは確認しておくとともに、子供自身で情報収集も行いたいので、具体的に話し過ぎないこともお願いする。</p> <p>○地域の方には、おおまかな話の構成を立てておくようにする。</p>

<p>12分</p>	<p>いものもあること。</p> <p>5 お話を聞き、感じたことなどを率直に学習ノートに記入する。</p> <p>6 学習ノートに記入したことを発表し合う。</p> <p>予想される・期待する発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行けば、なんとかなると思ったが、数が十分でないことを聞き、真剣に水や食料について考えないといけない。 ・ちゃんとこのことを家族に伝えて、自分の家でも準備するようにお願いしたいと思った。 ・今のままで地震が来たら、とても不安。 	<p>○どんなことでもよいし、言葉だけでもよいので今の感想をしっかりと残しておくように伝える。</p> <p>○友達の感想を聞きながら、同感したことや新たな思いが出てきた場合も、学習ノートに書き足すことを伝えてから始める。</p> <p>○今後の活動のキーワードとなるような言葉を黒板に書き留め、まとめや活動の方向性を示す時に生かせるようにする。</p> <p>防災について関心を高く持ち、進んで今からできることを準備したり、意識したりしようとする。 【学びに向かう力、人間性等】（発言・付箋記録）</p>
<p>3分</p>	<p>7 本時の活動を振り返り、方向性を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まずは、現状をしっかりと調べること ○どんなもの・ことが必要か 	<p>○キーワードをうまく活用しながら、子供から方向性の指針となる意見を拾い上げる。</p>